笛吹市探訪

シリーズ 第18回

～板額御前伝説－境川町・春日居町～

藤垈の滝と瀬立不動

今から800年ほど前の建仁元（1201）年4月、越後平氏で鳥坂城（新潟県中条町、現在の胎内市）の城主であった城資盛が、鎌倉幕府に反旗をひるがえしました。この時、城氏の中に男以上の弓矢の名手がいました。それが板額御前です。資盛の叔母である板額は、「童形少年のように髪をキリリと結び、矢倉の上から弓を射り、百発百中でこれに当たってものは皆死んだ」という。板額がけがをすると、資盛は敗北し、捕らえられた板額は、鎌倉で将軍の源頼家に引き合わされたが、堂々としていた」と、歴史書『吾妻鏡』に記されています。その後、浅利庄（中央市豊富町）一帯に本拠を構えていた浅利義遠（与一）が、勇敢な子供が生まれることを願い、板額を嫁にもらったため、甲斐の国に来ることになったのです。

板額は日本三女傑の1人と言われ、「一に板額、二に巴、三に更科勇婦伝」と巷で伝えられるほどの勇婦でした。世間では余り知られていない板額ですが、作家永井路子がその著書で巴御前とともに勇婦として紹介しています。『吾妻鏡』では板額は美人だと記されていますが、一説には醜婦とも言われています。果たしてどうだったのでしょうか。

さて、この板額御前にまつわる伝説が、市内にはいくつか残っています。

現在、境川町の小黒坂地区には板額塚が残り、この塚の脇の境川小学校へ登る坂道が、板額坂と呼ばれています。また、板額が出産に先立ち、藤垈の滝の脇にある瀬立不動にお参りした際に、腹帯を締め直したと言われる帯石が、石橋から境川支所に上る坂道の右側に残っています。

浅利に嫁にきた板額のお墓と思われる塚（板額塚）が、境川に残っているのは、浅利与一と板額の間に生まれた娘が、石橋に本拠を構えていた石橋八郎信継に嫁いだためと言われています。

また、春日居町の賀茂春日神社の神主をしている奥山家には、板額が使用したと言われる、なぎなた、弓、鎧通（反りのない重厚にきたえた短刀）が残っています。城氏の流れをくむ一族である奥山家が近くにいたことで、板額も何かと心強かったことでしょう。

この板額御前が縁で、境川村と中条町は平成8年に友好町村の盟約を結び、両町村が合併した現在も、その関係は続いています。

笛吹市教育委員会　文化財課

奥山家のなぎなた・鎧通

板額塚

帯石